

武道振興施設のあり方に関する提案(たたき台)

武道振興施設のあり方について

本県においては、日本伝統の武道を、県民、特に青少年の間に普及・奨励し、その健全育成を図るとともに、県民の健康づくりや生涯にわたる学びを推進するため、武道振興の中核的拠点となる県立武道館が必要である。

県立武道館が必要な理由

スポーツによる元気な信州づくり

県立武道館を整備することにより、既存の武道施設では開催が困難な大規模大会を積極的に誘致することができ、観光の振興や地域の活性化が図られるだけでなく、レベルの高い選手の技や姿勢を間近で観られることで、未来を担う子どもたちに夢や感動を与えるなど、スポーツによる元気な信州づくりの実現につながる。

また、目標となる拠点があることは、子どもたちや競技者にとって、希望となり、活動意欲を向上させる。

あわせて、安心・安全・快適な活動拠点の確保により、競技力の向上にもつながる。全国大会等での本県選手の活躍は、地域の一体感を醸成し、県民に元気と勇気をもたらすことが期待される。

さらに、競技を続けたい人が県内にとどまって活躍できる場となり、有力選手の県外への流出を防ぐことが期待される。

生涯スポーツ社会の実現

県立武道館を拠点として、県内の武道競技団体が連携し、情報を発信したり、武道に触れる機会を提供したりすることにより、武道が広く普及し、子どもから高齢者まで幅広い年代の方が同じ競技に取り組める環境が広がる。それにより、世代間交流や高齢者の生きがいづくりなど、生涯スポーツ社会の実現につながる。

あわせて、それぞれの年齢に応じて無理なく身体活動に取り組める機会が拡充することにより、さらなる「健康長寿県」の実現が期待される。

また、武道に取り組む県民に、安心・安全・快適な環境を確保するとの観点から、裸足で行う等、武道の有する特性に配慮した構造の施設が必要である。

青少年健全育成・競技力向上の根幹となる指導者育成の拠点としての位置づけ
武道の普及・奨励には、指導者の育成や資質の向上が必要であり、県立武道館を拠点とする体系的な指導者研修により、正しい指導方法を身に付けた指導者が全県で養成されること、指導者の資質が向上することが期待される。特に、平成24年度からの中学校における武道必修化に伴い、適正で効果的な指導の普及に有効と考えられる。日本固有の伝統と文化に触れ、礼節を尊重する態度等心技体を一体として修練することにより、青少年の健全育成につながる。

留意事項

県立武道館の整備にあたっては、県の財政状況を考慮し、建設及び維持管理に要する経費をできる限り抑制した上で、本県の拠点としてふさわしい規模の施設とすること。

地元市町村との協力・連携により、財源確保等に取り組むほか、適正な利用料金の設定・徴収により、維持管理に係る収入の確保等に努めること。

なお、東京オリンピック・パラリンピックの開催を見据え、事前合宿やプレ大会での利用を目指し、できる限り早期に整備することが望ましい。

県立武道館の利活用にあたっては、県民にとって使いやすい施設とするため、武道の活動及び施設の維持管理に支障のない範囲で、武道以外の利用も検討すること。

また、大会の誘致・開催、日常的な利用については武道競技団体の協力を得て、利用率の向上に努めること。

県立武道館は、周辺施設と連携することにより、より機能を発揮することが期待されることから、その設置にあたっては、周辺施設の状況も考慮した上で、適地を選定すること。

また、利便性を高めるため、施設へのアクセスについても十分配慮すること。